

# 新高退通信 No.124

HP : shin-koutai.jimdo.com

mail : shin.koutai@gmail.com

## 新潟高教組

発行所／新潟県高等学校教職員組合／新潟市中央区川岸町2-11 / TEL (265)4151 / FAX (231)1036 / 1部10円 (購読料は組合費に包含)

発行人 吉田 裕史

2016年9月1日号外

新潟県高等学校退職者の会

事務局  
〒951-8133  
新潟市中央区川岸町2-11-4 (高校会館内)

退職者の会専用電話  
025-265-1110

宿泊先の越後長野温泉「嵐溪荘」にて



### 燕三条・下田地域探訪

技の伝承・進化するものづくりで世界に発信  
八十里越の自然を体感しよう！

生涯学習委員会企画の標記地域探訪が5月25日・26日に実施された。参加者は21人、当日の朝、全県から東三条駅に集合し、宿のマイクロバスに乗りし探訪がスタートした。旅行記は、地元の三条・加茂支部事務局長の増田繁雄さんをお願いした。

「燕三条・下田地域探訪」の第1日。東三条駅から今夜の宿、嵐溪荘のマイクロバスに乗り、まず三条歴史民俗産業資料館を目指します。企画展示として掛け軸や屏風の展示、産業展示として三条市特産の工具や大工道具、握り鋏などの製造工程がわかりやすく展示されていました。私の父と兄が握り鋏を作っていて、私も小さい頃に作業の一部を手伝わされたので、なつかしい思いで見えていました。他にも三条市の歴史や遺跡の発掘品などが展示されていました。

次は燕市大曲にある燕市産業史料館へ移動しました。和釘から始まった燕市の金属加工の歴史は、売れなくなるとその技術を全て捨てて、新しい物を作ってきたもので、その捨てられた技術が失われてしまう事を憂いてここが作られたことを知りました。ここは民設官営の珍しいパターンだそうです。最後に学芸員のイケメンが何と明日訪れる予定の斉藤信一さんの甥と判明し、お互いに驚愕の悲鳴を上げていました。まさに世の中狭い。

このあと燕三条地場産業センター周辺でそれぞれ昼食をとったあと、12時半に再び集合し、午後は工場見学になりました。最初は三条市東本成寺のタダフサで包丁の制作工程を見学しました。研磨作業環境も私の親の頃はまだ粉塵の中でやっていたのが今は全て吸引し、製品の洗浄作業の廃液に含まれる鉄分も回収されていました。

次は有名な三条市高安寺のスワダを訪ねました。入り口で廃材で作られたオブジェを眺めた後、いろんな作業工程の順に案内されました。圧巻は丸棒を赤熱させてプ





タダフサの工場

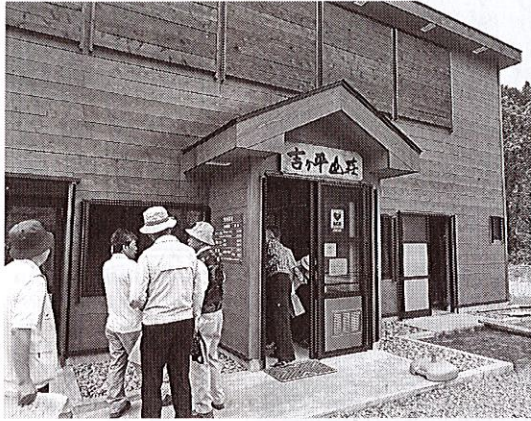
は心気迫る物でした。

レスで打ち抜く行程で、お腹にドンと来る衝撃でした。職人技の刃を合わせるヤスリ掛けの、その集中力

この後、見附市の運動公園、人面峠下の交差点、栃尾の梨の木トンネルと走り、下田の山並みロードに入り、八木ヶ鼻を経て、バスの運転は嵐溪荘の若社長に代わり、吉ヶ平を目指しました。

小一時間で新築された吉ヶ平山荘に着きました。山荘の周辺を見学したあと、10分ほど歩いた所にある集落の跡地を見学しました。これで今日の見学を終え再び嵐溪荘を目指しました。

嵐溪荘では、木村会長の「八十里越の歴史」の講演がありました。夕食前にお肌がつるつるになる温泉に入り、名物の鯉の



吉ヶ平山荘

えるので、これをバックに記念写真を撮りました。その後更に上を目指す6人と、ここで休憩後下山する者に分かれました。いつの間にか天候も回復しており噴き出た汗に風が心地よいです。天気が悪くなると人も

洗い、鮎の塩焼き、山菜の天ぷらとご馳走をいただきながら、嵐溪荘の夜は静かに更けてゆきました。

翌26日は、朝食を少し早めにした。ただき、午前中は小雨が降る中、「ヒメサユリの小径・高城城址を訪ねる」班と、「漢学の里・諸橋轍次記念館を訪ねる」班に分かれました。ヒメサユリの小径に向かう者は11人、道案内として三条・加茂支部の小倉勝さんにここから参加いただき、残りはそのまますで漢学の里に向かいました。駐車場から車で途中まで送ってもらい、そこから10分程登ると満開のヒメサユリが我々を迎えてくれました。展望台に着くと眼下に漢学の里の建物が見えます。守門岳もよく見

出てくるようで、登ってくるオバサン軍団や小学生の群れとすれ違いました。

車を降りた所から別ルートで下り諸橋轍次の墓を見て駐車場に戻りました。漢学の里からのバスを待ち、全員合流して嵐溪荘に戻り昼食となりました。



斉藤信一さんから話を聞く

いて工事関係者以外は入れません。大谷ダムの資料館で時間調整を行い。会員の斉藤信一さん宅へ出発しました。

広い玄関からお邪魔をすると太い梁が目につきます。奥様と娘さんに迎えられ、お菓子や自家栽培のイチゴが用意されて、一同恐縮してしまいました。茅葺き屋根を守る為にアタンを張り、

暖をとる為に天井を付けましたが普通の家より高いです。隣の作業部屋はまだ屋根裏がむき出しのまま、囲炉裏がありその上に火棚がある風景はまさに古民家ですが、皆さん実体験のある年代ですからノスタルジーに駆られて会話も弾みました。

これで全ての日程が終わったので東三条駅に向かいました。向かう車中で、仕事とは言え我々に2日間も付き合ってくれた嵐溪荘の運転手さんに感謝し、少し早かったです。東三条駅で解散となりました。

増田繁雄(三条・加茂支部)



# 第35回総会、報告

参院選、野党統一・森ゆうこ候補を全力で支持し、現退一致で勝利に向け取り組みを確認

参院選公示日の6月22日、第35回総会・懇親会が、代議員56人(定数58人)の出席により新潟会館で開催されました。

初めに昨年の総会以降に逝去された会員29人に黙祷を捧げ、増田繁雄さん(三条・加茂支部)、鴻島崇さん(長岡支部)を議長に選出し、総会がスタートしました。

木村会長をはじめとし、来賓の新高教吉田委員長、市民連合@新潟・共同代表の水内基成弁護士、連合新潟高輪協早川会長、新退教佐藤会長、日退教西澤会長(メッセージ)から、安倍政治の継続を許さないこと、森ゆうこの当選をめぐり闘うことなどのあいさつがありました。

支部改編(西蒲・燕支部の廃止)と、参院選の比例「なたにや正義」推薦方針、「特別会計から一般会計に繰り入れる件」(囲み参照)などに対する質疑応答がありました。が、原案は全て承認されました。懇親会は昨年同様中村副会長の

## 特別会計から一般会計に繰り入れる件

従来から、慣行により入会時に会費5年分を前納してもらい、これを特別会計として運用してきました。しかし、新年度の観点から、これを廃止するようになりました。5年後には特別会計が終了することになります。このときに残余金が約90万円程度出ることが判明しており、一般会計に繰り入れることとなります。

一方、慶弔規定の廃止に伴い、会費前納者で弔慰金未受給者(1994年以降の加入者)に弔慰金充当分を返却しています。会費前納終了時に、ひとり千円を返却していますが、このために臨時に特別会計から50万円を借り入れました。しかし、この借入金は返済ができていません。

そこで、毎年借入金の「50万円が返済できない」状態を続けるよりも、ここで特別会計から50万円を一般会計に繰り入れることにより、借入金を解消する役割を担うこととするという案を提出したものです。

## 今年度各支部総会から

司会で進行され、新会員の目黒正行さん(三条・加茂支部)と坂井志郎さん(長岡支部)のあいさつなど、総勢65人の参加で盛会となりました。

■新潟支部/6月17日/高校会館・とん八/出席34人/会場を白新コミユニティーハウスから高校会館&「とん八」に変更。新規の同好会の設立支援などの活動方針と編集・旅行委員会廃止、役員体制の若返り。

■新発田・村上支部/6月13日/北辰館/新会員5人、戦争法反対市民集会、懇親旅行(9月・1泊)、阿賀野市探訪(10月・日帰り)などの活動報告。「役員に女性を」来年度に向け努力などの方針決定。

■新津支部/6月15日/「飛鳥」/新幹事3人の役員体制。支部旅行(10月)、新春のついで(1月・新潟支部との合同)、「どんぐりの会」(冬・春・秋)などの行事計画。

■三条・加茂支部/6月10日/饒心亭お、乃/出席21人(現職支部長・新会員2人含む)/支部費納入規約の改正。日帰り旅行(5月・大

山)、ドラゴンドラの旅(11月)、囲碁大会、現退交流会などの活動計画。事務局長に増田繁雄さん、顧問に廣川前事務局長などの役員体制。

■長岡支部/6月10日/長岡グランドホテル/1部・講演「鉄工丸事件慰霊碑建立に学ぶ」木村会長。2部・総会では支部費徴収方法などの意見交換。新会員2人の参加。

■魚沼支部/6月10日/十日町・ミオン中里/副支部長に藤ノ木一正さん、事務局次長に太田喜一郎さん。囲碁大会、「支部だより」の発行、酒蔵見学(2月)などの行事計画。

■柏崎支部/5月21日/「ニュー新橋」/支部長に石黒猛さん、副支部長に外山昇さん、常任幹事を2人とする新役員体制。新会員1人の参加

■上越支部/6月19日/「高陽荘」/出席40人/総会前に社民党又市幹事長があいさつ。中島眞皓さんを事務局長とする総勢29人の役員体制。年間行事計画を決定。

■佐渡支部/6月16日/「浦島」/本田福之さんを支部長、前支部長の木戸さんを顧問とする新役員体制。支部学習会(10月)、現退交流会(12月)などの活動計画。

(事務局長 石野久久)





### 教員生活を振り返って

新津支部 諏訪 淳 (14)



私は、1982年、27歳のとき、魚沼地方の普通高校に採用

されました。そこには、新高教の元執行委員長が同じ社会科におられ、赴任したその日に即刻加入したことを覚えています。その日の職員会議では、タバコの煙が充満する会議室で、勤務時間を過ぎていくにもかかわらず、入学式に案内を出す来賓をめぐって白熱した議論が続き、圧倒されました。

1982年は、労働運動の転換点でした。初めての人勧凍結があり、労働戦線統一の始まりの年で

した。組合員は新高教の方向性をめぐって苦悶しました。今では考えられませんが、賃カツを覚悟でストも打ち、真剣に生徒と向き合い、政治の方向性を問い、闘いました。新採用の何も分らない若造は、多くの先輩諸兄から叱咤激励され、多くのことを学びました。私の教員生活の原点がこの高校にあるように思います。9年で2回卒業生を送り出し、その卒業生たちが、今でも同級会に招いてくれます。嬉しい限りです。

2校目の工業高校では、悩み多き生徒たちと苦闘しながらも先輩・同僚に恵まれ、多くのことを教わり、自分なりに成長できたと思っています。3校目では、体障がいのある子どもたちと接し、経験のない世界で、生徒に対する目線が変わったように思います。

このように、私は同僚・先輩、そして生徒から多くのことを学んできました。これからはそのことを後輩たちに伝えていくべきだと考える年齢に達していました。しかし、私にはそれができなかったのではないかと悔いています。労働運動は低迷し、管理教育が進み、組合員もジリ貧が続きました。労働運動に無関心な教員に接するた

びに、「落ちるところまで落ちればわかる」と考えるようになりました。この考えが誤りだということとは明白です。退職した今の私にできることは多くはありません。2校で14時間の時間講師をやっています。そこで出会う生徒や若い教員に少しでも恩返しができるばと思っています。

### 千葉県で教員スタート

上越支部 小池秀則 (15)



私は、理科、生物の担当として千葉県の市原緑高校からスタートしました。創立8年目、1学年8クラスで生物担当は2人。2

人とも初任の新任で何もわからず指導も受けず困りはてました。1学期で私が不登校になりそうになったときに助けてくれたのが、千葉高教組の先輩たちでした。

以来新潟県へ帰ってきてからも組合から離れることはありませんでした。六日町(4年)、小千谷(6年)、柏崎常盤(4年)、高田(8年)、吉川(2年)、久比岐(8年)と38年間の教員生活を終え、ほっとしています。

在職中に、日本野鳥の会、柏崎植物研究グループ、新潟県生態研究会、頸北林業研究会、柿崎山岳会に加入しました。4月に、新たに退職者の会上越支部の「紙魚の会」に加えていただきました。今までとは全く異なる分野に挑戦です。

### 今は進路探索中

三条・加茂支部 加藤春美 (15)



今年度から組合員に加えていただきました。1979年春、

栃尾高校定時制に赴任し、あふれる緑の中で国語の教員としての一歩を踏み出しました。定時制は夜間部でしたので、生徒は昼間働いて夕方6時に登校します。夏は蚊取り線香持参で通学して来ました。冬は9時に授業が終わった後、雪の中を2時間の道のりを歩いて集団で帰宅する生徒たちもいました。今年の5月に、初めて担任をしたクラスの同級会に呼んでもらいました。みんな立派な顔になってい



て頭が下がりました。それぞれの人生をしっかりと生きてきたことが分かる50歳の顔でした。その頃の私はといえば、ただ毎日の授業をこなすのに精一杯でした。

以来白根高校・三条商業高校・三条東高校・燕高校・県央工業高校・新津南高校と職場は変わりましたが、私自身は何も変わらなかつたような気がします。こうして勤めてこられたのは、周りの先生方のご指導とご援助のおかげです。そして何より生徒の姿に励まされて教員であり続けることができました。15歳から18歳という人生で最も濃密な時間を、生徒たちは惜しげもなく高校という場所につき込みます。そこで37年を過ごすことができて幸せでした。

職場を離れて今は進路探索中です。高校生は入学したとたんに卒業後の進路探索を迫られます。しかし高校生に限らず、幾つになっても次の生き方を模索していかなければならぬと思っています。昨年9月に戦争法案反対のデモに参加し、退職された先生方の熱さに圧倒されました。教員の意識も組合活動もずいぶん変わりましたが、「教え子をふたたび戦場に送るな」は不変です。教え子の

子や孫も、男も女も戦場に送らないための活動に参加したいと思っています。よろしく願います。

### 小休止

三条・加茂支部 目黒正行(14)



3月末をもって39年間の教員生活を一応終了しましたが、この間糸魚川高校(定時制)を初任校として、川西・興農館・三条商業・長岡商業・三条工業(後の県央工業)・栃尾・吉田高校と勤務してきました。いずれの職場におきましても諸先輩方や分会に支えていただき心より感謝申し上げます。また組合活動におきましても分会・支部・本部では多くの方々からご協力ご支援をいただきありがとうございます。

4月からは時間に縛られず悠々自適の生活ができると思っております。予想に反して何かと慌ただしい毎日を送っています。午前中は主に「猫の額」ほどの庭の手入れですが、雪融けを待ったかのように春の雑草がはびこり、ようやく始末を終えたと思うと初夏から夏の雑草が勢いづいてきます。仕方がないので気長に草取りをし

ています。午後は3時頃まで読書の時間に当てていますが、半分は居眠りの時間となっています。3時以降は近所の体育館に通い、ラニンング・筋トレ等で汗を流して

晩酌の準備運動としております。地域との関係では、現在、地元卓球同好会に入会させてもらい週2日活動したり、中学生の指導等を行い、交流させていただいております。

退職後は新たな高尚な趣味や生きがいと思っておりますが、とりあえずこの1年間は気ままに暮らし、一区切りつけたいと予定しております。

最後になりましたが、退職者の会に加入させていただきましたありがとうございます。今後ともよろしくお願いたします。また、微力ではありますが、協力させていただきますければ幸いです。

### 末永くよろしく

### お願い申し上げます

新潟支部 小山智保子(15)



豊栄高校勤務がご縁で新潟支部に入らせていただきました。

教員のスタートは、佐渡女子高校でした。佐渡では、人の教養や土地の文化が人柄を作るといふことに感激しながら4年を過ごしました。2校目は、安田高校で、生まれた土地ということもあり、16年間も過ごしました。ここでは、悪さしたり、やんちゃしたりする生徒とたくさん出合い、その背景には、親や親を取り巻く環境が生徒の行動を左右していると感じて家族関係や、成育歴に興味を持ち交流分析とカウンセリングの研修を始めました。その後、盲学校では天使のような生徒達に出会い、阿賀黎明への通勤時間には大自然の恵みを受受し、「山紫水明」や「明鏡止水」を体感することができました。最後に豊栄高校では、躰や調教みたいな指導が生徒の生活習慣や信条までも変える事を目の当たりにしました。

60歳になり、再任用され、いまだ豊栄高校で勞われ乍らこれまでと何ら変わらない生活を送っています。老後のための貯金が増えないことに疑問を持っています。毎日サンデーの立場になった時には、ソーイングカフェのようなものを作ってみたいと思っています。幼稚園や保育園・小学生が必



要になる〇〇入れのような巾着やカバンの作り方を若いペアレントに教えつつ子育て支援の場所を作りたい・・・などと妄想しています。

今は、新高退の方々のお元気なご活躍を見習いたいと強く思います。先輩の皆様の積極的な活動ぶりに敬意を表し、後に続けるように心がけたいと考えています。

どうぞよろしく願っています。

「ゆつくりと生きる」

柏崎支部 高崎敏幸(15)



この度、退職者の会に入会させていただきまして高崎と申します。どうか、よろしく願います。

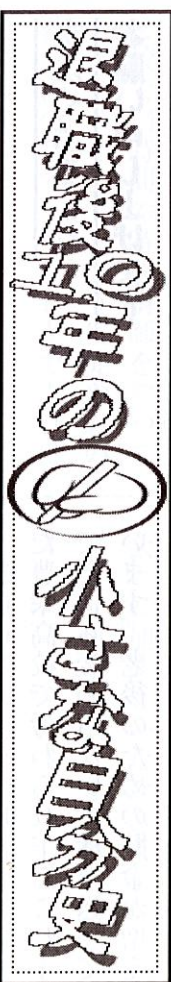
私は1983年に数学の教員として新潟市立明鏡高校で働き始め、以後、西越高校(現在の出雲崎高校)、柿崎高校(現在の久比岐高校)、柏崎常盤高校、柏崎高校と計33年間勤め、今年の3月末で2年早く勸奨退職いたしました。この間、確固たる信念があったわけではありませんが、上からの理不尽で不当な圧力に対抗するには大

勢の力が必要だと思いい、新採用の年からずっと組合に入っていました。途中、組合の権利がたくさん奪われましたが、それでも、「1人ではない」と思えたことで、管理職の理不尽で不当な発言や提案にキチンと抗議できたことはとても幸せなことだったと思っています。

今現場では「組合離れ」が進んでいると聞いています。「現場で忙しさが増しているのに、さらに組合の仕事もしなければならぬのは、とても大変」といった思いを持つ人が増えているのではないのでしょうか。「組合の活動内容を分かり易いものだけに少なく絞り込んで、組合のメリットをもっと分かり易くアピールできたら良いのになあ」と思っていました。来年度からは、組織改革で会議や役職等がスリム化されるそうなので「組合離れ」に歯止めがかかることを願っています。

さて、退職後はストレスが無くなったせいも、体重が増えてしまいい、人間ドックで食事の改善と運動を強く勧められました。そこで、週に3回それぞれ異なる種目のスポーツ教室に通い、楽しみながら体重を落とそうと日々励んでいます。

す。今現在、体重は全く落ちていないのですが、楽しみながらゆつくりと続けたいと思っています。



自分が今何をしたいのか、心の声をよく聞きながら「ゆつくりと生きていきたい」と思います。

「稀にあらず70歳」

新潟支部 横山 勲(05)



退職を機に3月下旬に四国お遍路に出かけ、5月に佐渡一周

ロングライド、その後テニス三昧の日々と家庭菜園、盛夏はアユ釣り、これが退職1年目の生活でした。退職2年目から70才の春まで、専門学校非常勤講師として勤務、あれから10年古希を迎えました。

昨年、戦争法制強行の前に「安倍政治を許さない」のポスターを掲げて新潟駅前立ちました。後日再び新潟駅前から白山公園までのデモ行進に参加しました。野坂昭如氏が指摘するように、「愚鈍な政治家が道を誤ろうとしている」事への抗議を行動でとの思いでした。不幸にも戦争法案は可決

されましたが、幸いなことにシールズをはじめ、若者達や子供を持つママさんなど多くの人々が集会などに参加し抗議の声を上げたことはご承知のとおりでしょう。諦めないことだと思います。

自給率向上を目指し家庭菜園に取り組んでいます。素人菜園は思うに任せず自己評価60点、今年菜園仲間から分けて頂いた上質の大根の種の出来が楽しみです。

テニスも楽しく続けています。今年は、草トーナメント・シニアの部の上位入賞を目指して頑張りたい。野望か野暮でしょうか。

この夏は、水害と福島原発事故の影響で休止していたアユ釣りを4年ぶりに再開したい。それについても日常の生活と社会動向や自然環境との関わり方の大切さを改めて考えさせられます。





# 米寿

氏名	(年度)	支部
伊藤 陽一	(88)	新潟
若林助太郎	(88)	新潟
後藤 光治	(88)	新発田・村上
大橋美恵子	(88)	長岡
山田 剛	(88)	長岡
岡村 昭三	(88)	長岡
石塚 光雄	(88)	魚沼
小早川龍平	(88)	魚沼
高橋 正治	(88)	柏崎
春日不二夫	(88)	柏崎
横尾 昭二	(88)	上越
宮崎 一郎	(88)	上越
平野 耕平	(88)	上越
本間 仲夫	(88)	佐渡

# 喜寿

氏名	(年度)	支部
伊東 伸夫	(99)	西蒲・燕
内山 熙	(99)	新発田・村上
田辺 慶弘	(99)	新津
高橋 良子	(99)	新津
古川 春雄	(96)	三条・加茂
廣川 善美	(99)	三条・加茂
金子 祐治	(99)	長岡
押見 俊穎	(99)	長岡
遠藤 貞男	(99)	長岡
藤木 実	(99)	長岡
田村 忠夫	(99)	長岡
大塚 寅芳	(99)	長岡
五十嵐 芳子	(91)	柏崎
長島 克之	(99)	柏崎
今井 一長	(99)	柏崎
笠原 正昭	(99)	柏崎
新田 澄子	(99)	柏崎
保坂 宇昭	(99)	柏崎
田辺 恵一	(99)	柏崎
荒井 一郎	(99)	上越
石川 満祐	(99)	上越
白倉 昇	(99)	上越
安部 信俊	(99)	上越
池原 信玄	(99)	上越
武内 征司	(99)	上越
竹林 廣治	(99)	上越
渡部 勇	(99)	上越
中村 敏明	(99)	佐渡
仲川 一秋	(99)	佐渡
佐々木 博	(99)	佐渡
長嶋 陽二	(99)	佐渡

# 喜寿

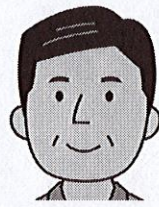
氏名	(年度)	支部
石山 稔	(99)	新潟
坂口千鶴子	(99)	新潟
藤田 是	(99)	新潟
大森 豊樹	(99)	新潟
白井ひさ子	(99)	新潟
大木 禊爾	(99)	西蒲・燕
長谷川正行	(99)	西蒲・燕
石井 保男	(99)	西蒲・燕
高橋 顯司	(99)	西蒲・燕
石田 定夫	(99)	西蒲・燕

**ご長寿、おめでとうございます。  
これからもお元気で、ご活躍を！**



## 「畑仕事と旅行」

### 佐渡支部 笠井義見 (05)



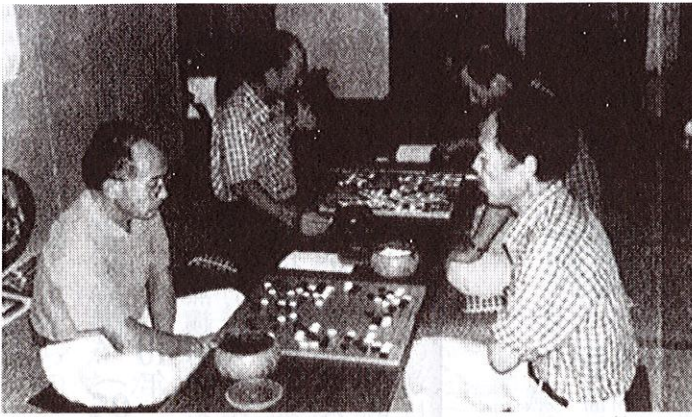
この10年、無芸無趣味の私の毎日、おおむね畑仕事である。もとが農家だったから畑はある。放置するわけにもいかないから、

半ば義務的に始めた野菜作りであるけれど、これが案外おもしろい。手抜きも多く、趣味ともいえないが、今は20数種類の野菜作りを楽しんでいる。畑仕事はまだある。野菜畑より広い雑草畑の草刈り。ほかにも果樹の選定・摘果・消毒など結構忙しく、無芸無趣味の割に、退屈せずに10年が経過した感

である。気分転換には旅行。歳が歳だから、あと何回行けるのか、元気なうちにと、近年は隔月でどこか出かけている。自分は信仰心ゼロと思っているのだが、なのに古寺と仏像巡りが好きである。昨年大きな変化があった。3回の手術入院で延べ1ヶ月、がん

センターで3食昼寝付きの別荘生活を満喫した。以後は毎月のように新潟への通院。これも気分転換にひと役買っている。佐渡は、どこへ行くにも海を渡らねばならない。これをおっくうがらずに渡れる間は、私はまだまだ元気なのだと思っている。





支部囲碁大会のひとこま



山野草を楽しむ会「国上山朝日公園」

この間、支部活動は総会、学習会等への参加者の固定という課題を抱えながらの歩みであったが、全国に例を見ない住民投票による巻原発建設阻止、

さらに、西蒲・燕地域高齢協が、連合新潟高齢者協議会方針で統廃合の対象となったため、西蒲・燕支部は活動の範囲が更に狭まることになった。

「退職者の会」が結成されたのは1982年のことであった。その後、各支部が結成されて西蒲・燕支部は1984年に6番目の支部としてスタートした。スタート時の会員数は12人、このとき支部の将来は期待された。2007年時に会員数は53人と拡大したが、退職教員の意識の変化、現職支部の統廃合などの状況により、支部会員数は次第に減少するようになった。加入呼びかけの年度末退職者がゼロということも数年あり、新高退10支部の中では会員数が最小の支部となった。

「金権選挙」の汚名がある政治風土の刷新をめざした自治体選挙ではその力を発揮した。巻原発建設をめぐっては1994年10月「巻原発・住民投票を实行する会」(笹口孝明代表)が結成され、「実行する会」による自主管理の住民投票勝利を経て、住民投票条例の制定、笹口町長の誕生、「巻原発住民投票」勝利へと結びついたが、この間の取り組みは現退一致が結実した大きな成果となった。

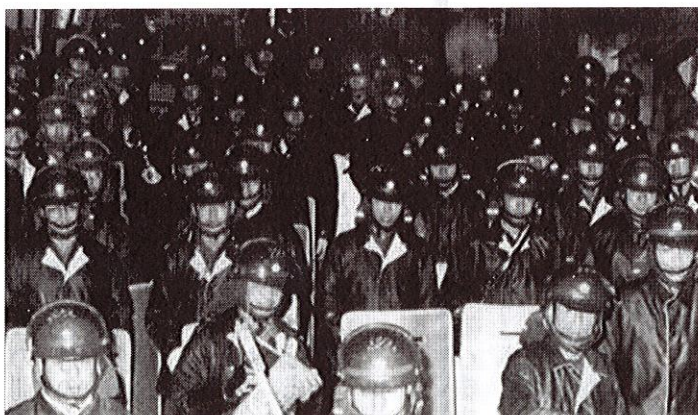
## 支部改編で新高退は9支部に 西蒲・燕支部32年間のあゆみに幕

西蒲・燕支部長 長岡弘治

へと変更になるが、新支部での皆さんのいっそうの活躍を祈念したい。

巻原発建設をめぐっては1994年10月「巻原発・住民投票を实行する会」(笹口孝明代表)が結成され、「実行する会」による自主管理の住民投票勝利を経て、住民投票条例の制定、笹口町長の誕生、「巻原発住民投票」勝利へと結びついたが、この間の取り組みは現退一致が結実した大きな成果となった。

西蒲・燕支部の名は消えるが、果たした役割は大きな遺産として会員に永く記憶されていくに違いない。これまでの32年間、支部会員の皆さんからいただいたご理解とご協力には心からお礼を申し上げます。また会員の所属支部が概ね新潟支部



戒厳令下を思わせる機動隊(巻原発闘争)



巻原発住民投票実施の笹口町長が誕生



東京生れ東京育ちの私は、1964年、初めて新潟の土を踏み、柏崎農業高校に赴任し、教員生活のスタートを切りました。

その後、女子・共学時代を経験した小千谷西高校、新潟市立工業と白山高校が合併統合した高志高校、夜間定時制船江高校そして新潟工業高校で教職最後の学級担任として建築科の生徒を送り出し、1年後2001年3月に定年退職しました。

新潟での借家生活も終え、函館湯川にある妻の実家(空き家)をリフォームし移り住み、60才代の内に北東北3県と北海道内を自転車旅行しようと決意。

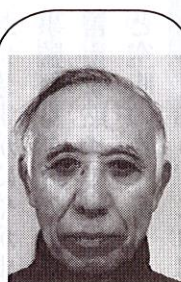
5〜6月と10月の期間を利用し、津軽海峡フェリーで函館〜大間の下北半島へ、函館〜青森間の青函フェリーで青森市内へ、又はJR木古内駅から津軽海峡線青函トンネルを抜けて青森県内へと、気象状況等を判断しながらも、その都度経路を選び、2泊3日のコースを決めペダルを漕ぎました。

時には野営装備を携え、1人では数人で、気軽にゆったりと岩手・秋田・青森の3県を3年半掛けて巡りました。それぞれの土地で出会った親切と居酒屋で飲み語

り出会った激励の言葉、その津軽弁を含めた各県特有の語り口調、東北弁に感謝感謝です。

又この旅で青森のハイキングスキアの会員に出会い、八甲田山の各コース及びその県境の山々をスキーでハイキング体験し、その虜になってしまいました。無論函館周辺の山々でもスキーハイキングをしています。

北海道内での自転車旅は、7月の初旬から中旬頃に開催されるインターナショナルオホーツクサイ



# この人は今

新潟支部 鈴木武宏(01)

クリング第20回目、退職年度2001年から参加。雄武町を出発し興部〜紋別〜湧別〜サロマ〜常呂(泊)〜網走〜小清水〜知床斜里迄の210キロ超える1泊2日のツアーで、不参加1回を含め71才まで参加しました。

又、9月中旬頃の知床羅臼からオホーツク海と太平洋の間に北方4島を望みながらペダルを漕ぎ、標津・根室湾・納沙布岬・根室市内へと向かう、望郷ラインサイクリング2002年第12回目から廃

止になるまで参加。

国交回復した1956年の「日ソ共同宣言」から今年で60年になる。北方領土返還の見通しがいまだ立たない。富山県からこのサイクリングに参加した元島民・二世・三世と出会い、その3人の思い、姿を考えると非常に切ない。4島はまだ遠い。

新潟プラス東北6県の広さの道内、この2つのサイクリング行事の参加行き帰りを工夫利用して、名寄から雄武へ、山行を兼ね利尻

島一周し稚内・宗谷岬から雄武へ等。斜里から道東の釧路へと、又知床半島・知床連峰含め網走管内の斜里岳・藻琴山等の山行も楽しみました。道内の自転車旅の一部でしたが、68才までに全道を何とか巡ることが出来ました。

函館では、2004年に設置された森林環境保全センターの森林づくり手伝いとして、周辺の森林や駒ヶ岳・大沼周辺の森林へ、植樹・枝払い・保育間伐等の森林作業に出掛けたり、陸上競技大会の

競技審判員として手伝い、躍動する選手から元気を貰っています。

2006年に結成された函館ライフスポーツの会に即入会。雪国の生涯スポーツであるスキーを中心に、家に籠らず、健康と体力の維持増進及び健全な人間関係の確立を目指し、技術の研さんと会員の親睦を図ることを目的する会で、100人近い会員数と平均年齢70才台の笑いの絶えない明るい元気の者の集りです。

冬はスキー講習8回、スノーシューハイキング1回、ルスツ1泊ツアー1回、登山会は春秋1回、パークゴルフ大会とゴルフ大会は春夏1回。それぞれ半数超える参加で、私も日程を工夫し、出来る限り参加に努め、楽しんでいきます。速いもので退職して15年、75才を迎える、函館をへさる?年入りました。いよいよ身辺整理・健康・身体チェックが必要。忙しくなりそう?いやいや、今年の干支(申)は伸びるといふ意味あり、何歳になろうと心身・気持を伸ばし、目標・夢を持ち、そんな年でありたい。気持老けるな。新高退の発展、会員の御健勝を祈念致します。



# 「私のシベリヤ抑留生活②」

野村三十市(85)(長岡支部)



4月になるとすぐに帰還の話が出て、みな喜びいさんだ。汽車に乗り一昼夜でナホトカに着き海をみた時はもう帰れると思った。しかし我々は帰されず別の離れた収容所に入れられ、町や港の建設に従事させられた。食事はまた最低限となり、朝昼食も一緒に食べ、昼は抜きである。海岸近くの作業では、流れついた昆布を、空缶を使い海水で煮て食べたり、町の外の野草のある所からは手当り次第取って来ては食べた。

4月下旬になって湾内の氷が解け、船の航行ができるようになった。丁度その時は港の真上の高台で、土木工事をしていた。港が一望に見渡せる場所である。懐かしい日本の船である。そのうちに乗船する人たちが続々と集合して来た。帰還者は専用の収容所に入り、最後に税関検査を受けて荷物を点検されてから集るのである。普通

例として帰された。とにかく働ける。働きの毎日であった。私たちが到着した時、ナホトカ港は1万トンの船が1隻だけ接岸できるのみであったが、7月には2隻になり、秋に帰った人の話によると3隻が接岸できるようになったという話であった。私も7月中旬にすっかり身体を悪くし、遂に帰ることになった。残っている人たちの連絡先を記入した紙を大切にしまつて、帰還者収容所に入った。3日後に船が来て港に集ったが、町の途中で皆が見送ってくれた。涙で顔がかすんでしまい、言葉もよく口から出なかった。雨の日であった。乗船は最後の方であったが、病人という事で比較的良好の所に席をとらせて貰った。一夜明けた日本海は快晴で全く波がなく、弱った身体でも全く船酔いしないですんだ。



病院船高砂丸

翌日、舞鶴港が見えた時はやっと帰れたと思つた。長岡市が8月1日の空襲で丸焼けになったという事は船の中で聞いた。地図を見せて貰ったが、我が家の方は大丈夫であった。身体がだるく、家に連絡もできないまま汽車に乗り、京都で乗替えの時、東本願寺で休ませて貰った。翌日午後1時ごろ宮内駅についた。駅も駅前商店街も焼けてすっかり変わっており、駅裏の宮内理研工場も全部焼野原となつており、わずかに南の端に3、4棟の建物が残った。丁度昼寝時で曇り空であったが、30分の道中を1人もあらずに家についた。我が家は全く変わっていなかった。一廻り見渡してから玄関に入り、「ただいま」と言った。「はい」と声かして妹が出て来た。顔を見るなり「わあ、うれしいが帰って来た」と言った。それ程すごい恰好だったようである。よろよろと上り端に腰をおろした。母が出て来て「家についたなど思うて気をゆるめては駄目だぞ、しっかりしろ!!」と、泪の叱咤であった。

昭和22年7月23日であった。以後約6か月間療養に専念した。

(完)



# 熊本のボランティア活動に参加して

國分眞三(02) 新潟支部

6月26日から30日まで、日教組被災地支援・教育復興ボランティア活動に新潟県高校退職者の会代表として、石野公久さんと2人で参加して来ました。



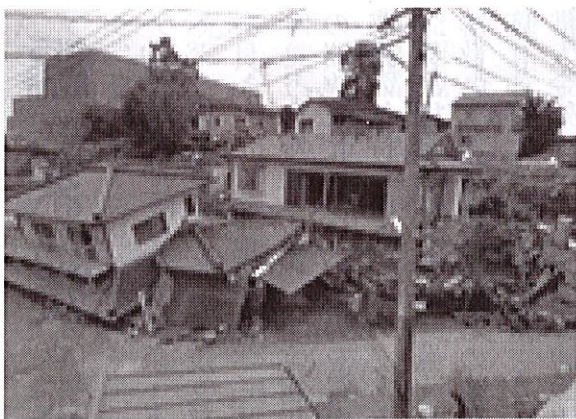
石野さんと私

宅に戻るかの選択を迫られているのです。

我々の具体的な仕事は、まず食事の世話があります。朝食は、夜勤の人が担当しますが、昼と夜は日勤が準備します。避難者の

私たちが日勤の仕事は、朝8時頃から夜7時頃まで、長嶺小学校に避難している人たちをサポートすることです。長嶺小学校は、地震直後は、校舎内に溢れる程の避難者が押し寄せていたようですが、我々が行った時には、昼は、5、6人、夜は10数人と少なくなっていました。しかし人数が少ないから何の問題も無いかと言えそうですがありません。残った人が少なくなればなるほど、自分の今後の居場所をどうするかと考えると、焦燥感に苛まれ、苛立ちも募って来ます。7月の初旬になれば、長嶺小学校から退去しなければならぬと告げられていました。仮設住宅に入るか、別の避難所へ移転するか、自

のリーダー格の人と相談して、救援物資の中から選んで出します。救援物資は沢山あるのですが、今必要な物がなかなか無いのが現状です。体育館やトイレ、ごみなどの清掃、片付けなどの作業は避難者が交代でやってくれますが、地震や大雨の影響で雨漏りがしたり支障が出たりする場合は、役場の方と相談しながら対応します。一番難しいことは、避難者に寄り添って話を聞いたり、アドバイスをしたりすることです。外部から来る人、内部の人同志の間で、時々トラブルが発生することもあり、その対応もあります。我々が滞在している間、震度3



地震の被害まざまざと (益城町)

の余震が1回ありましたが、それ以上に心配したのは、水害になって再び多くの人が小学校に避難してくる事でした。幸いその災いは起こりませんでした。最終日、熊本空港へ行く途中、熊本城と震源地益城町へタクシーで寄ってもらい、被災地を見てきました。テレビで観た通りなのですが、余りのひどさに言葉を失ってしまいました。新潟地震や中越地震・中越沖地震を体験して来ましたが、それ以上だと思いました。しかしそんな状態の中でも、再開している店数軒を見つけました。私たち2人は高齢者なので、被災地で果たしてお役に立てるかどうかが、いやむしろご迷惑をかける

のではないかと不安であったのですが、なんとか無事に終えることが出来て内心ホッとしています。貴重な体験をしてきました。

## ※告知等

◆「熊本地震」日退教会員被災者支援カンパのご報告

全県の会員から、計53万円が集まりました。絶大なる協力に感謝いたします。先日、日退教を通じて現地にお届けしました。

◆福祉厚生委員会企画Ⅱ学習会

「3・11東日本大震災・東電原発事故からの避難者に聞く」

日程・9月29日(木) 13時  
会場・高校会館3階会議室  
お話し・磯貝潤子さん

◆生涯学習委員会企画Ⅱ研修旅行

「北前船、西廻り航路起点の酒田、羽黒山、藤沢周平のふるさと鶴岡をたずねる旅」

日程・10月12日(水)～13日  
見学先・旧青山本邸、本間美術館、館、羽黒山、鶴岡市内など

参加費・2万6千円程度  
申し込み切れ・9月23日(金)

↓詳細は折り込みチラシ参照



# 『活動日誌』・点描

■「通信」編集会議 (5月2日) 次号の全体構成を検討 ■「総がかり行動」(5月3日) 万代橋東詰にて。終了後、メディアアシップでのリレートーク「戦わないために闘おう」 ■役員会 (5月11日) 第35回総会議案書を検討 ■連合新潟高教協第4回幹事会 (5月18日) 2016年度運動方針、予算案について協議 ■燕三条・下田の地域探訪下見 (5月19日) 吉ヶ平への道路が、開催日に開通との報に安堵 ■憲法学習会 (5月20日) 講師・佐高信さんの話術に感嘆 ■「通信」編集会議 (5月23日) 「再校」となると、ほとととする ■燕三条・下田地域探訪 (5月25、26日) 案じられていた天候にも恵まれ、無事に終了

■新退教第44回総会 (5月27日) 今年度から「来賓」のあいさつは、新教組委員長のみで、他はメッセーじで代替 ■教育をよくする県民会議第1回幹事会 (6月2日) 繰越金多く、次年度会費は不徴収を決定 ■戦争法廃止！安倍内閣退陣6・5新潟大行動 (6月5日) 2千人の人が駅南広場を埋め

る ■県委員会 (6月8日) 総会議案書の説明 ■日退教北陸ブロック総会 (6月14、15日) 2月開催の代表者会議で「代議員数削減」を総会議案と決めたが、前倒しして参加した他県の対応に困惑 ■新高退第35回総会 (6月22日) 参議院選での「なたにや正義」候補推薦に疑義の意見。特別会計から一般会計への繰り入れについては説明不足の指摘。 ■森ゆうこ 街頭演説会 (6月23日) 野党統一候補とあって、応援弁士に野党の重鎮が参加。さすがの弁舌に脱帽 ■新教組憲法学習会 (6月25日) 組合員の意識調査では「組合員の4割くらいが、憲法改正に是」との新教組委員長のあいさつに驚愕 ■第39回希望奨学金選考委員会 (7月14日) 応募者92人から72人を選考。 ■教育をよくする新潟県民会議第5回総会 (7月19日) 総会后、「主権者教育と子どもの貧困」をテーマに学習会 ■連合新潟高教協協議会第24回定期総会 (7月22日) 新潟県退職者連合に名称変更。「今後の高齢者協議会の組織・運営方法等について」は、その方向性が承認され、第25回総会で最終決定。

(木村)

# 編集☆集☆後☆記

「地域探訪」は、燕三条・下田へ。今回も地元三条・加茂支部の会員から、目的地の下見、「ヒメサユリの小径」案内、自宅古民家の開放などと多くの協力を得た。感謝の気持ちでいっぱいである。

第35回総会は、西蒲・燕支部の解散と支部再編、参院選の推薦対応について、「特別会計」からの借入金処理などの議案で議論沸騰。複数の支部総会で、選挙方針に関する提起あり。今後の検討課題か。

「戦争法」廃止を全力で！として、連載をしてきたが、参院選終了でいったん区切りをつける。推薦をして取り組んだ選挙区「森ゆうこ」と比例区「なたにや正義」が当選したことは大きな成果だが、改憲勢力の伸張、社民党の衰退は無念と言うしかない。まだやれることはあるはずなので、今後の取組みを模索していきたい。

昨年度末の新高退加入者は11人、多くの方から「新会員からのたより」が寄せられた。世代が若いこともあり、メールで寄稿して下さる会員が多いのが編集者にはありがたい。今号に掲載できなかった

た方の原稿は次号に掲載する。

「退職後10年の小さな自分史」、3回目の掲載は2人、これで前回、前々回と合わせて15人となった。ますますのご活躍を。

西蒲・燕支部が、32年の歴史を閉じ、36人全員が新潟支部に所属変更する。「巻原発反対闘争」を新高教とともに闘った西蒲の闘士たちに敬意を表する。

「熊本のボランティア活動に参加して」は、日教組がとりまとめる熊本地震支援の活動に新高退から参加した國分さんの報告である。「被害の惨状に驚き、避難者の苦悩に向き合い、貴重な体験ができた」とのこと。年齢を押しでの行動ご苦労様。(内山)

## 会員計報

謹んで哀悼の意を表します。

神保 和夫さん

(長岡支部) 4・7 86歳

相澤 半一さん

(上越支部) 5・30 85歳

市川 稔さん

(柏崎支部) 6・1 82歳

渡辺 耕平さん

(新潟支部) 6・19 79歳

佐々木昭二さん

(魚沼支部) 7・24 88歳